

## ゾーニングとヒグマの行動段階区分に関する検討について

### ○課題

第1期方針での課題として、利用者により極度に人馴れしたヒグマの課題が挙げられた。

特に、ゾーン3の区域において、人慣れした行動段階1の個体が多く出没し、追払い等の対策労力が膨大となっていることが課題として挙げられる。

人馴れしたヒグマに対する対応の方向性として、資料3-1では下記2点を示した。

- ・極度に人馴れが進んだ個体については、国立公園内であっても早期に捕獲する。
- ・国立公園外では、行動改善の見られない段階1の個体を積極的に捕獲する。

これらの対応を実施するにあたり、具体的には、ゾーン3や行動段階1を中心に、ゾーニングや行動段階及びその対策内容についての整理が必要だと考えられる。

### ○現行方針におけるゾーン3の特性及び行動段階1の定義

#### 【現ゾーン3の特性】

定住者が少数存在するか、番屋が比較的多い遺産地域。もしくは、一般観光客が含む利用者の往来が比較的多く、利用拠点が存在する遺産地域。

利用者が一定程度訪れる隣接地域。

(該当地域)

- ・国立公園内の全ての車道沿線
- ・カムイワッカ園地（湯の滝周辺）
- ・ホロベツ園地（フレペの滝遊歩道＋知床自然センター周辺）
- ・斜里町岩尾別温泉
- ・羅臼町観音岩以南～ルサ川河口海岸部
- ・湯ノ沢集団施設地区（羅臼ビジターセンター周辺）
- ・標津町ポー川自然公園（国立公園外）

#### 【現行動段階1の定義】

行動段階1：人を避けない。

人に出会っても慌てて逃走するような行動はみられないが、人為的食物を食べてはいない。

### ○検討ポイント

ゾーニングと行動段階の組み合わせによる対応内容の妥当性について、検討が必要。

- ・ゾーニングの見直し（各区域の拡大、削除、統合、組み換え等）が必要か？
- ・行動段階の見直し（各段階の定義の修正、新たな段階の追加等）が必要か？
- ・対応内容の修正で解決できるか？